

私のお薦めコーナー 札幌近郊の『環状列石』を訪ねて —小樽市～余市町の縄文遺跡—

知本康男

1. はじめに

2021年に『北海道・北東北の縄文遺跡群』がユネスコの世界遺産に登録されたことは、まだ記憶に新しいと思います。そのうち道内最大級の環状列石がある森町の鷲ノ木遺跡は、高速道路建設に伴って発掘され、道路を地下トンネルに変更して見事に保存された珍しい遺跡です。是非一度、訪問したい史跡です。そう言えば、小樽から仁木へ抜ける広域農道（フルーツ街道）を良く利用しますが、道路脇に環状列石の史跡を示す幾つかの看板を見かけます。まずは近場の環状列石を探索することにしました。

2. 環状列石とは

環状列石はストーンサークルの和訳で、長軸の石塊を直立（もしくは斜立）させてそれらを環状に並べた遺跡のことで、縄文時代に造営された集団墓地や祭祀場の跡地と考えられています。

ただし、私の勝手な希望的イメージをポンチ絵（右図）にしてみました！説明は省きます。



なんと小樽市～余市町間は全国的にもストーンサークルの密集エリアであり80以上の列石群が確認されており、縄文時代後期（約3,500年前）に造営された遺跡とのこと。今回はその中でも史跡として整備されている3箇所を紹介させていただきます。

3. アプローチルート

札幌を起点とすると札幌自動車道から後志自動車

道に分岐して塩谷ICで高速道路を降りて、道道956号を海側へ進みます。つぎに左折してフルーツ街道を西進します。そうするとグラビア写真に示す史跡入口の杭看板を発見できます。



図-1 ロケーション案内図

4. 環状列石の史跡めぐり

忍路環状列石は、畑に囲まれた標高20mほどの河成段丘面上に位置しています。長径33m・短径22mの楕円形の様相を呈し、この付近では最大級の規模になります。私は55年ぶりに訪ねましたが、幼少期には感じ得なかったスピリチャルな空気を覚えました。ここは小樽市が管理しています。



写真-1 忍路環状列石の全貌

残念ながら駐車場はありませんが、遺跡の真横まで車で乗り着けることができます。ただし、民地内の細道ですので、フルーツ街道脇に停めて徒歩でのアプローチ(たった3分)をお勧めします。勿論ですが地元の方が畑仕事で居られたらちゃんと挨拶(声掛け)を忘れずに!

地鎮山環状列石は、忍路環状列石から直ぐ隣の尾根地形の頂部(標高50m)に位置します。やや小ぶりで長径10m・短径8mの楕円形となります。ここも駐車場はありませんが、フルーツ街道から徒歩で約15分です。案内看板や急斜面には階段が整備されており無理なく到達することができます。ここも小樽市管理の史跡です。



写真-2 地鎮山環状列石の全貌

最後に余市町が管理する西崎山環状列石には駐車場が整備されており、そこから徒歩5分程度です。長径20m・短径10mの楕円形状で、ここも標高70mの尾根筋に位置します。駐車場からの急勾配の階段に少し苦労しますが、本サイトからの素敵な眺望はそれを忘れさせてくれます。好天であれば忍路半島先端の兜岩から古平のローソク岩まで見通すことができます。眼下には次に紹介するフゴッペ洞窟が見下ろせます。西崎山環状列石のロケーションはまさに私が描いたポンチ絵のような情景を彷彿させます。



写真-3 西崎山環状列石の全貌

5. オプションツアー

3箇所の環状列石で縄文時代後期の遺跡を堪能したあとは、フゴッペ洞窟(余市町)と手宮洞窟(小樽市)にも立ち寄って続縄文時代の遺跡も是非とも味わってみてください。ここでは洞窟内壁に舟・魚・人の陰刻画を観ることが出来ます。素人目にみても両洞窟の絵には非常に類似性を感じます。なんとこのような窟内の陰刻画が残っているのは、国内でもこの2箇所だけとこのことで非常に貴重な遺跡になります。両洞窟の標高は4~5m程度で、1500年前までに造営されたようです。じつは今回紹介した遺跡の造営時代と分布標高は(貝塚の分布も含め)海水準変動と密接に関係していますが、今回は紙面が足りず詳細は別途の投稿とさせていただきます。



写真-4 フゴッペ洞窟(左)と手宮洞窟(右)の外観

6. おわりに

ここで紹介した環状列石3箇所&洞窟2箇所のエクスカージョンに要する時間は札幌発着で約6時間です。昼食(海鮮?)を現地で食べると日帰りトリップにちょうど良い行程かもしれません。この夏、北後志のマリンブルーを感じながら縄文ロマンに想いをはせるドライブは如何でしょうか。

最後になりますが、本コーナーへの会員の皆様からの投稿を絶賛募集中です。お待ちしております。宜しくお願い致します。

知本康男(ちもと やすお)

技術士(建設/応用理学/総合技術監理部門)
基礎地盤コンサルタンツ(株) 北海道支社

